

## 「利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する公聴会

平成 25 年 2 月 25 日（月）13:00～13:15

水辺交流センター2 階多目的研修室

発言者：公述人 1

こんにちは。私は、取手市から参りました■■■と申します。利根川に興味を持っていますごく一般人でございます。どうぞよろしくお願ひします。座ったままで失礼してよろしいでしょうか。まず、私が利根川に興味を持ちはじめたのは、私の義理の母の家が、江戸時代から取手にへ住んでいまして、度重なる災害にあっていたというようなことで、義母、今でも湖、それから川からお風呂等も入れないような状況でございます。それが、なぜかという昭和の 1 桁生まれなんで、よほど子供時代に水というのが怖かったのかなというふうに思っております。それでは、計画全般について発言させていただきます。平成 2 年に利根川水系河川環境管理基本計画が策定され、これは群馬・栃木・埼玉・東京・千葉・茨城だったと思いますが、これ以来、全体の計画まで全体 18 年、19 年に利根川水系の計画が出たと思うのですが、それまでに治水等については、環境はだいぶあったと思うのですが、治水等についてはなかったような気がします。全体の計画の中で上流の八ッ場、湯西、それから江戸川の分派、それから取手の稲戸井、稲戸井調整地の計画、それと一番取手では皆さんご記憶だと思いますが、昭和 57 年の小貝川の水害の折に、あれはなぜ起きるのかと言うことを、たぶん、取手の人は、何回も発言しているんじゃないかなと思いますが、本川の水がだいぶ多くなったときに、小貝川の水量が本川の水に押されてなかなか流れてこないというような、よく逆流といわれるような状況がありまして、取手も水害の多い場所でございます。その他、その折に布川先に昭和 20 年だったと思いますが、放水路の計画、それから、前回には印旛放水路の計画、それから下流の無堤地区、要は、東庄、波崎だと思うのですが、このような計画があったと思います。取手としましてはその川の流量が少なくなるということは、非常にその水害、内水はもちろんですが水害の恐怖から少しでも少なくなるというようなことで、だいぶ心待ちにして。ただ、江戸川の分派、それから放水路等にはなかなか行かないのではないかなというふうには考えておりました。ただ、築堤、その後、布川に高規格堤防の利根町に築堤がありまして、だいぶあの辺は堤防については恐怖をなくしたかなと、ただ、その後 3.11 の地震がありまして、私ちょうど銚子に向かっていたら、その地震の時対岸の高規格堤防の公園にいたのですが、ここなら安心だろうと思って、あそこに車を止めました。ところが、対岸はちょっと土手が崩れたのに高規格堤防は、何でもなかったような気がします。ですから、やはり堤防っていうのは、大事だなんていうふうに思いました。あれが本当に増水の時と重なったらどうなただろうというふうに、私はあそこで車を止めておりました。思ったような状況でございます。私、利根川ちょっと興味がありまして、ごく一般人でございますが、利根川に興味がありまして、325km 要所は全部歩きました。下の東庄の無堤地区、それから稲戸井はもちろん江戸川合流点、それから取手の増水にとって一番私は、個人的に研究しました。大事だなと思ったのは八斗島の観測点。この八斗島の観測点が 1m50cm 超えると取手の堤防の小段あたりまで来るような状況になります。それはたぶん取手の人はみんな知っているのではないかな。それほど、下流地区もそうですが、利根川沿川の地区は水に対しては相当恐れている状況でございます。ただ、前回の計画が出た折に、八ッ場、湯西のダムの問題が、色んな問題が問題になったような気がします。私、ダムも全部見えています。利根川水系のダムは、草木それから五十里、鬼怒ダム、それから当然、その八

ッ場にも泊まりました。泊まっているいろいろな状況、平成17、18年だと思いますが、あそこに泊まってみたときに、余談ですがうちの子供がダムの研究をされていて、大学のゼミはそういうことをやっていたので、ちょっと八ッ場の問題があるんでお父さんちょっと見てみたいねというような状況で見に行きました。その折、道路があがってもう出来ていた。それから列車のトンネルが出来ていた。それから温泉街の移動する場所が出来ていた。まだその旧温泉街にそのとき泊まったのですが、いや早く何とかして欲しいんだというような話は地元の方がしておりました。それからその上の品木、一番これは河川環境を守っているのは品木ダムではないかと私は思うのですが、あそこの仕事をみたらダムがほんとうにいるのか、いないのか、という議論の中ではどうかと。あそこはほんとうに河川環境を守っている場所だと思います。草津温泉から流れるあの硫黄を中和しているというような状況もちょっと見させてもらいました。それからたまたま湯西のダムのダムサイトのコンクリート打ちにちょっと見に上げたときがあります。今のダムというのは、本当に環境を見て造るんだなど。一番は私がダムを本当にあった方がいいと思っているのは春先の雪解け水を貯めたあの状況、全部のダムは春先見えています。当然、私はあの最上流の水上の矢木沢、それからその上のダム、それをも全部春先見えています。私は個人的になぜあの電光掲示板で、春先のダムの状況、あれだけ水を貯めている状況を映さないのか、なぜ国土交通省はああいうことをしないのかとと思っていました。私はダムの環境を守りたいために、水上の植樹祭にも行きました。それから下草刈りの登録もしています。そういうようなことで、そうすると水上の町長さんとお会いするときがあるんですが、下流の人たちにダムの状況を見て欲しいと、なんとか見て欲しいんだというような状況はいつも話しております。当然、相俣の何周年か記念もちょっと講演会の興味があって、群馬大学の先生の講演会を聞きに行きました。ダムがなかった時代の災害というのは、こんなに大変だった。それから全国の災害の状況を先生はあのなんか災害の担当の教授らしくて、相当写していました。やっぱり最近の降雨の状況をみると、本当にそのダムなり、高規格堤防なり、築堤なり、守って欲しいなど、いつ生命財産が侵されないかわかんないような状況であり、去年あたりも九州、それから三重県あたりも状況をみますといつでも、いつ、なんどき起こるかかわからない。昔の建設省と呼ばれた時代は多分、100年にいっぺんの雨が降るのに備えるんだというような状況をしていましたが、100年とは待てないような状況ではないかな。我々はほんとうに、家のかみさんもそうですけど、災害を経験している者にとっては、ほんとうに水は何とかして欲しいというような話はいつもされています。最後ですが、国土交通省さんというのは旧内務省だと思いますが、木曾川の三河川、それから荒川放水路、利根川東遷等々で先人はいろいろな国民の生命財産を守るために、そういう仕事をしてきたと思いますので、何卒いろいろな意見、反対、賛成はあろうかと思いますが、ほんとうにそのダムの状況、春先の状況を見てもらって、いろいろな状況で宣伝していただければと思います。ただ、今回のちょっと今回の青森の酸ヶ湯温泉で5m以上超えたという、ああいうような雪を貯めるのもダムじゃないかなと。水上の町長さんではないですけども春先のダムの状況、見て欲しいというようなことでございます。私はそういう意見がありまして本日ここに参りました。ありがとうございます。

以上